

「高校の授業について」 要約

今からお話しますことは私の勤めております2校でのことであり、一つの例として参考にさせていただけたらと思います。

1つ目は兵庫県立国際高校です。1学年120名、3クラスの小規模の高校です。2年生になると英語以外の外国語を学ぶことになっており、「外国研究」という科目名で6言語（西、仏、伊、独、中、韓）があり、生徒120名が学びたい言語を選択必修しています。

2年生 「外国研究Ⅰ」という科目名で週2時間

3年生 「外国研究Ⅱ」週2時間

3年生でさらにあと2時間選択必修で「外国研究Ⅲ」をとることも可能です。教室に日本人講師とアシスタントとしてネイティブの講師と一緒に入り教えています。現在、私とペアを組んでいるネイティブは在日7年目のコスタリカ人の男性です。授業以外の取り組みとしては、大阪のエクステンション主催のスピーチコンテストに参加しています。スペイン語検定試験の6級、5級を受ける生徒もいます。受験のために補習という形で昼休みの20分くらいを使い4, 5回対策学習をしています。受験する生徒は多いときは5, 6名で1, 2名の年もあります。

次に大阪市立扇町総合高校について報告します。簿記実習や大阪の文学といった自由選択科目群の中にスペイン語、韓国語、中国語の3つの第二外国語があります。3年生のみで週一回の2時間続きの授業です。授業は週に一回なので行事で一度抜けると2週間ぶりということになり、復習に割く時間が多くなります。主に教科書に沿って文法、簡単な会話練習をし、時にはビデオ、映画鑑賞も交えています。教科書は国際高校と同じものを使っています。ネイティブがいないのでCDをかなり使うようにはしていますが、どの生徒もほとんどスペイン人、中南米人と接したことがなく、ネイティブと話すのが夢というのが彼らの現実です。

これからも生徒たちのモチベーションを保ち続けつつ、高校でしっかりと基礎固めをし、力をつけた生徒たちを大学に送りだせるようにしたいと思います。